



パレモ信条

- 一. 私達はお客様の声を大切にします
- 一. 私達は明るく楽しく前向きに主体性ある職場をつくれます
- 一. 私達は魅力あふれるブランドを提案します
- 一. 私達は自らの努力で高い目標に果敢に挑戦します
- 一. 私達は仲間と感動を通して輝かしい明日を創造します

愛知県ファミリー・フレンドリー企業登録



登録年月日 平成 20 年 2 月 15 日
登録番号 C 0 0 2 4

仕事と家庭の両立に配慮した取り組みを行なう愛知県ファミリー・フレンドリー企業として登録いたしました。

PALEMO CO., LTD.

第28期報告書
[2012.2.21.～2013.2.20.]

～Doing it～

皆様の豊かさ・成長・満足の実現のために



PALEMO という社名は、「PAL(仲間)」と「EMOTION(感動)」の二つの言葉を合わせた造語であり、「感性豊かな仲間たちとともに人生、仕事の感動を味わう」という思いが込められています。

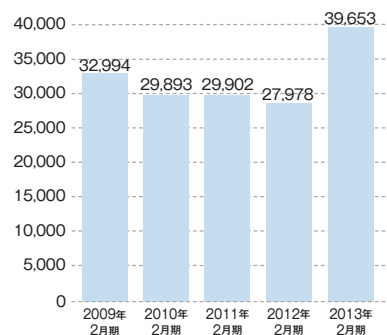
INDEX

株主の皆様へ	2
トップインタビュー	3
アパレル事業の概況	5
雑貨事業の概況	7
財務諸表	8
株式情報	9
会社情報	10

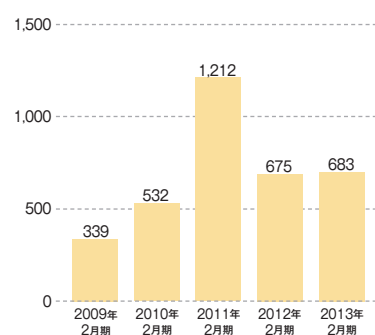


経営成績

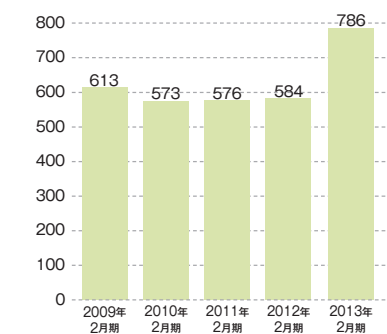
売上高 (百万円)



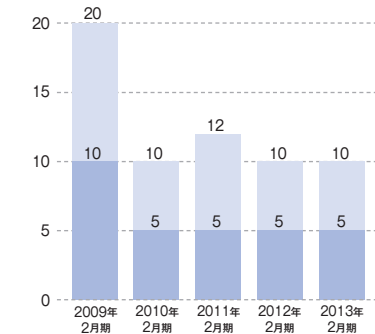
経常利益 (百万円)



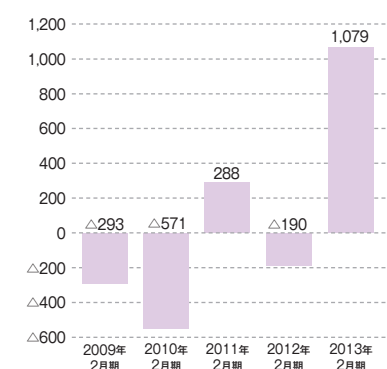
期末店舗数 (店舗)



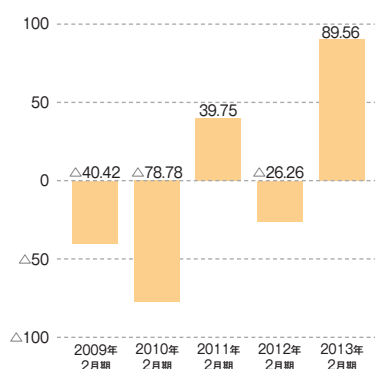
1株当り配当金 (円)



当期純利益 (損失) (百万円)



1株当り当期純利益 (損失) (円)



新たな成長に向け、パレモは進化を遂げてまいります

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。当社第28期報告書をお届けするにあたりまして、謹んでご挨拶申し上げます。

この第28期におけるわが国経済は、長引く円高やデフレに加え、新興国の景気減速懸念ならびに日中関係の動向などにより、先行き不透明な環境が続きました。また、昨年12月の政権交代以降、デフレ脱却や景気回復への期待が高まってきましたが、個人消費は予断を許さない状況で推移しました。

当社が属する専門店業界は、新設商業施設の減少から、寡占化した競合環境が進むとともに、消費者の価格志向の高まりもあり、顧客の争奪が一段と増すなど、厳しい環境が続きました。

このような環境の中、当社は平成24年2月21日に株式会社鈴丹と合併し、人財の融合とともに新たな組織体制の確立ならびに営業資産の整備増強に努めるなど、合併後の「事業基盤の整備増強」に注力してまいりました。そして、ブランド毎のディビジョン体制を基盤として、ブランド力ならびにビジュアルマーケティング力の強化に取り組んでまいりました。その結果、第28期は合併により増収となったものの、厳しい消費環境の下、既存店の売上高は減収となりました。

第29期におきましては、合併効果を発揮することにより、「安定成長基盤の確立」を目指してまいります。

そして、引き続きブランド力強化に取り組むことを基本といたしまして、「**郊外主力事業の強化**」「**直接貿易の拡大**」ならびに「**都心への深耕**」に注力してまいります。

今後も企業価値ならびに株主価値の向上に向け、役員をはじめ社員一同、専心努力する所存でございます。また企業の社会的使命を重視いたしまして、企業統治、内部統制ならびにコンプライアンス体制の強化など、企業の質的向上にも努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援、ご高配を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

指針

正しい経営

安定成長

ローコスト経営

人財経営

代表取締役社長

小田保則





～Doing it～

強化と変革により安定成長基盤を確立します

合併後の体制は整えることができたと考えます。しかしながら、当社を取り巻く消費環境や競合環境は変化してきております。需要創造や顧客創造に向けた取り組みを強化すると同時に、前期にはできなかった統合効果を発揮することにより、収益性の向上ならびに拡大のための基盤を創造してまいります。

Q1 当期の業績および取り組みについてお聞かせください。

合併による増収	当期の業績は、売上
既存店減収	高396億53百万円（前
当期純利益増益	年同期比141.7%）、営
	業利益4億14百万円
	（前年同期比65.7%）、経常利益6億83百万円（前年同期
	比101.3%）となりました。

既存店売上高前年同期比（株式会社鈴丹の前年同期実績を加味した前年同期比）は95.6%となりました。その外的要因といたしましては、6月ならびに7月期の低気温に加え、9月ならびに10月期の残暑といった天候要因と競合各社のプロパー販売時期におけるセールの拡大、そしてデフレ環境下での低価格市場の拡大などがあげられます。内的要因といたしましては、合併による体制の整備に注力した結果、厳しい環境下において当社の需要創造ならびに顧客創造に向けた取り組みの強化が発揮できなかったことが要因と考えます。

当期の取り組みにおきましては、「**合併後の新体制の確立**」を中心としまして、**ブランド毎のディビジョン制の確立**、**直接貿易の強化体制の確立**、**販促強化体制の確立**ならびに**既存店舗の活性化**等に取り組みました。

既存店舗の活性化におきましては、ブランド転換ならび

にビジュアルプレゼンテーションの変革を目的に56店舗の改装（前年同期18店舗）を実施しました。特に「GAL FIT」から「RecHerie」へ転換した店舗は好調に推移しています。また、新たな成長を目指して、「Visalia」「DOSCH」「SUZUTAN」「Forest Heart」ならびに「illusie300」などの新しいショップイメージの確立にも取り組みました。

その他、販促においては雑誌媒体活用の拡大とモデル起用による店頭でのプロモーションに取り組んだと同時に、全社をあげて接客販売、サービスレベルの向上にも取り組みました。そして、郊外主力事業である「GAL FIT」「SUZUTAN」につきましては、下半期より客数増に向けたマーチャンダイジングの変革にも取り組みましたが、その成果は第29期に期待したいと思います。

店舗の出退店におきましては、当期は既存店舗の改装に注力した結果、出店は31店舗となり、また、不採算店舗の整備などにより61店舗を退店いたしました。合併に伴う店舗増232店舗を加えまして、当期末店舗数は786店舗となりました。

また、当期純利益におきましては、株式会社鈴丹から引き継いだ繰越欠損金に対する繰延税金資産計上等によりまして、10億79百万円となりました。その結果、当期末の純資産は前期末対比12億19百万円増加し、69億50百万円となりました。

Q2 今後の方針および今期の施策についてお聞かせください。

専門店業界の今後におきましては、景気回復の予兆が見られるものの個人消費への波及は時間を要するものと思いますし、消費増税、円安による生産コスト上昇圧力ならびに外資を含めた競合激化など予断を許さない環境が続くものと考えます。また、商業施設環境におきましては、都心での活性化投資が増加すると同時に、郊外も含めまして商業施設毎の個性化が進んでいくものと思います。

こうした環境下におきまして、合併以降進めてきた事業基盤の整備増強に続いて、今期はその統合効果を発揮するなどにより「**安定成長基盤の確立**」を目指してまいります。そこで、**郊外主力事業の強化、直接貿易の拡大、販促およびプロモーション強化、顧客化推進、都心、モール立地への出店拡大**等の施策に取り組んでまいります。

郊外主力事業である「GAL FIT」「SUZUTAN」「Siebelet」においては客数増に向けて、顧客層の拡大や

● アパレル事業ブランド別の状況

D:ディビジョン（単位:店舗）					
	合併増加	出店	退店	業態転換	当期末店舗数
ギャルフィットD	－	4	17	0	278
リシェリエ	－	0	0	10	18
ドスチ	－	0	0	0	39
ギャルフィット他	－	4	17	△10	221
スズタンD	152	6	15	4	147
リジェイD	14	3	5	1	59
エスアイツシーD	60	0	9	△5	46
リメディオD	－	0	2	1	27
ヴィサリアD	－	1	1	0	5
アパレル事業合計	226	14	49	1	562

需要創造ならびに顧客創造型のマーチャンダイジングに取り組んでまいります。また、直接貿易の拡大ならびに販促強化につきましては、前期に体制を整備増強してまいりました。直接貿易は統合による規模のメリットを活かして、アセアン地域を含めて拡大すると同時に荒利益率の向上も図ってまいります。販促におきましては、ブランド力向上を目指して、雑誌掲載やプロモーションの高度化に取り組んでまいります。

そして「都心、モール立地への出店拡大」につきましては、ライフスタイル型であり、顧客創造型の「木糸土」「Hare no hi」や生活雑貨の需要創造型である「illusie300」の出店依頼が多く、今期もこれが中心となって出店拡大していきます。アパレル事業では、「RecHerie」「DOSCH」「Visalia」「Forest Heart」を中心に出店を図ってまいります。

また、前期も既存店が二桁増収となり好調に推移した「INCENSE」ならびに郊外立地における各ブランドの出店も実施するなど、今期は積極的に出店をしてまいります。

最後に、当社は「多核化ブランド戦略」を基本に、常にブランド力に磨きをかけることで将来に向けて成長し続ける姿勢は変わりません。そのためにも、「強化」と「変革」を繰り返し、成長に向けた「進化」を遂げてまいります。

● 雑貨事業ブランド別の状況

D:ディビジョン（単位:店舗）					
	合併増加	出店	退店	業態転換	当期末店舗数
シーベレットD	－	4	5	△1	105
イルーシー300D	－	4	1	1	32
インセンスD	－	4	2	0	29
木糸土・ハレノヒD	－	4	1	0	8
雑貨事業合計	－	16	9	0	174
複合店	6	1	3	△1	50

ギャルフィットディビジョン



Recherie
「大人可愛い」をコンセプトにファッションに敏感な女性に向けたワードローブを提案します。

DOSCH
強めて個性的な着こなしを好む女性に、最新の遊び心あるスタイルを提案します。

GAL FIT
最新トレンドファッションを中心に、ベーシックアイテムをバランスよくMIXし、リアルで等身大のスタイリングを提案します。

当社の基幹事業であるギャルフィットディビジョンは、期中に「GAL FIT」を4店舗出店しました。都心ブランドの「RecHerie」については既存店舗からのブランド転換を10店舗実施し、「DOSCH」については内装イメージを刷新した改装を実施し、いずれも好調に推移しており、今後も積極的に既存店舗の活性化ならびに新規出店を進めてまいります。



ヴィサリアディビジョン



Visalia
v.v.p
いつでもかわいくおしゃれでありたい女の子に、トレンド感を取り入れたSWEET MIX STYLEを提案します。

「Visalia」は、上半期に旗艦店である渋谷109店を改装しており、ブランドイメージも刷新しました。下半期には九州初となる天神コア店を出店し、当期末店舗数は5店舗となりました。今後はアパレル事業の都心ブランドの一番手として、ブランド力を磨き拡大してまいります。

リメディオディビジョン



Li Meduo
自分のスタイルをもったポジティブな女性に向けて、質感に拘った上質な着こなしを提案します。

「Li Meduo」は、30代の大人の女性をメインターゲットにしたブランドであり、トレンドを程よく取り入れながら質感に拘った商品を展開しております。実際の顧客は30代中心から上の年代までを取り込んでおり、今後は更に顧客化を推進し、都心、モール型ショッピングセンターへの出店ブランドとして育成してまいります。

スズタンディビジョン



suzutan
ティーンズからミセスまでを顧客に、最新ファッションと着回しのきくベーシックアイテムをプチプライスで提案します。

「SUZUTAN」は、新内装と新ビジュアルプレゼンテーションによる新たな店舗に取り組み、新規出店ならびに改装も実施し、当期末店舗数は147店舗となりました。「GAL FIT」と並んでアパレル事業の基幹ブランドです。同ディビジョン内で展開する「Forest Heart」は期中に新規出店5店舗、ブランド転換を6店舗実施。今後もブランドの更なる育成、拡大を図ってまいります。

エスアイツーシーディビジョン



S. X. C.
エレガンスな服もカジュアルな服も「×スイート」で大人可愛いフェミニンスタイルに仕上げて、大人になっても可愛いものが大好きな女性のオンからオフまでトータルにプロデュースします。

「SI2C」は、「品のある大人スイート」にテーマを絞り、マーチャンダイジングの精度を高めることでブランド力を強化してまいりました。今後は、雑貨も含めたトータルな商品提案を強化するなどブランド力の向上を図り、都心立地での出店拡大を図ってまいります。

Forest Heart フォレストハート



ファッションを楽しみたい大人の女性に、暖かざやぬくもりの感じられる素材感を活かしながら、スタイリッシュなカジュアルスタイルを提案します。

リジェイディビジョン



Re-J
洗練されたカジュアルスタイルを中心に、大きいサイズのお客様に向けてハイセンスなコーディネートと丁寧な接客で提案します。

su*pu*re
キャリアエレガンス・キュートカジュアル主体にヤングレディースのトレンドファッションを、大きいサイズで提案します。

大きいサイズを展開する「Re-J」は、「su*pu*re」の14店舗と統合し、期中に新規出店を3店舗、ブランド転換を1店舗実施し、当期末店舗数は59店舗となりました。店舗拡大により認知度の高まりと同時に商品力も強化されております。メール会員獲得も順調に進んでおり、これと連動した販促強化により、顧客化を進めてまいります。

雑貨事業の概況

シーベレットディビジョン



Siebelet

毎日を楽しくさせる、トータル提案型雑貨ショップで、親子で、ワクワク楽しく過ごせる空間を提案します。

illusie

アクセ、コスメを中心にトレンド発信。女性のもっと可愛く、もっとキレイに、もっと楽しくをテーマに毎日をハッピーにさせる「プラスワン」を提案。

雑貨事業の主力であるシーベレットディビジョンは、「Siebelet」を期中で3店舗を出店したのに加え、都心地下街型の新たなブランドとして「illusie」を1店舗出店し、当期末店舗数は105店舗となりました。今後は、オリジナル性の強化で顧客化を推進し、郊外、都心ともに出店を拡大してまいります。

インセンスディビジョン



INCENSE

レディース、メンズそして服飾雑貨からトラベルケースまでバッグとその関連商品をトータルで提案します。

「INCENSE」は商品力と接客による販売力が向上し、2期連続で安定して既存店増収を果たしています。売上効率も向上し、当期は新規に4店舗を出店し、当期末店舗数は29店舗となりました。また、新内装にも挑戦し、今後は接客力を武器に、グレードの高い商品の販売にもチャレンジしてまいります。

イルーシー300ディビジョン



illusie300

インテリア、キッチン用品などの生活雑貨を、「ハッピー」「ワクワク」「ドキドキ」をキーワードに300円のワンプライスで提案します。

「illusie300」は期中に4店舗を出店し、当期末店舗数は32店舗となりました。店舗数の増加に伴い、オリジナル商品を拡大すると同時に、提案型ビジュアルプレゼンテーションの強化を進めてまいりました。今後は、需要創造型のブランドとして、オリジナル商品の更なる開発を進め、刷新した内装イメージで出店拡大を図ってまいります。

木糸土・ハレノヒディビジョン



木糸土

木・糸・土の素材を活かし「無理なく無駄なく」をコンセプトに、シンプルで飽きのこない生活雑貨を提案します。

Hare no hi

モノが溢れる現代で、ひとつひとつの身の回り品に、シンプルで手作りの温もりを求める大人の女性に、雑貨とアパレルでライフスタイルを提案します。

「木糸土」「Hare no hi(ハレノヒ)」は期中に4店舗出店しました。モノが溢れる現代の中、匠の技によって創られる木・糸・土の素材を活かした良質な生活雑貨と温もりを感じさせるアパレルとで、ライフスタイルを提案しています。今後も都心立地を中心に、顧客創造型ブランドとして積極的に出店拡大してまいります。

財務諸表

貸借対照表			(単位:百万円)
	当事業年度 (平成25年2月20日現在)	前事業年度 (平成24年2月20日現在)	
■資産の部			
流 動 資 産	5,911	4,946	
固 定 資 産	10,966	7,253	
有形固定資産	1,603	1,295	
無形固定資産	82	52	
投資その他の資産	9,280	5,905	
資 産 合 計	16,878	12,199	
■負債の部			
流 動 負 債	6,995	5,580	
固 定 負 債	2,932	889	
負 債 合 計	9,928	6,469	
■純資産の部			
株 主 資 本	6,950	5,730	
資 本 金	1,229	1,229	
資 本 剰 余 金	1,433	1,203	
利 益 剰 余 金	4,288	3,305	
自 己 株 式	△1	△7	
純 資 産 合 計	6,950	5,730	
負債及び純資産合計	16,878	12,199	

株主資本等変動計算書							(単位:百万円)	
当事業年度 〔平成24年2月21日から 平成25年2月20日まで〕	株主資本					純資産 合計		
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
当期首残高	1,229	1,203	3,305	△7	5,730	5,730		
合併による増加		238			238	238		
合併による自己株式の割当		△7		7	－	－		
剰余金の配当			△96		△96	△96		
当期純利益			1,079		1,079	1,079		
自己株式の取得				△1	△1	△1		
事業年度中の変動額合計	－	230	982	6	1,219	1,219		
当期末残高	1,229	1,433	4,288	△1	6,950	6,950		

POINT

- ① 資産合計は、168億78百万円となり、前事業年度末に比べて46億78百万円増加しました。主な要因は、株式会社鈴丹との合併により流動資産が20億78百万円、固定資産が39億74百万円増加したことによるものです。
- ② 負債合計は、99億28百万円となり、前事業年度末に比べて34億58百万円増加しました。主な要因は、株式会社鈴丹との合併により、流動負債が42億2百万円、固定負債が16億12百万円増加したことによるものです。

損益計算書			(単位:百万円)	
	当事業年度 〔平成24年2月21日から 平成25年2月20日まで〕	前事業年度 〔平成23年2月21日から 平成24年2月20日まで〕		
売上高	39,653	27,978		
売上原価	18,240	13,100		
売上総利益	21,413	14,877		
販売費及び一般管理費	20,998	14,246		
営業利益	414	631		
営業外収益	313	66		
営業外費用	44	23		
経常利益	683	675		
特別利益	17	7		
特別損失	351	586		
税引前当期純利益	350	95		
法人税、住民税及び事業税	217	213		
④ 法人税等調整額	△946	72		
当期純利益又は純損失(△)	1,079	△190		

キャッシュ・フロー計算書			(単位:百万円)	
	当事業年度 〔平成24年2月21日から 平成25年2月20日まで〕	前事業年度 〔平成23年2月21日から 平成24年2月20日まで〕		
営業活動によるキャッシュ・フロー	422	455		
投資活動によるキャッシュ・フロー	76	△170		
⑤ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,697	△87		
現金及び現金同等物の増減額	△1,197	197		
現金及び現金同等物の期首残高	928	730		
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	664	－		
現金及び現金同等物の期末残高	395	928		

- ③ 純資産合計は、69億50百万円となり、前事業年度末に比べて12億19百万円増加しました。主な要因は、当期純利益10億79百万円の計上や、株式会社鈴丹との合併によりその他資本剰余金が2億30百万円増加したことによるものです。
- ④ 法人税等調整額は、株式会社鈴丹から引き継いだ繰越欠損金に対する繰延税金資産計上等により、△9億46百万円となりました。
- ⑤ 財務活動によるキャッシュ・フローは、△16億97百万円となりました。株式会社鈴丹との合併により、借入金30億円増加したものの、当事業年度において借入金を16億円返済したことにより、当事業年度末の借入金残高は25億円となりました。

株式情報

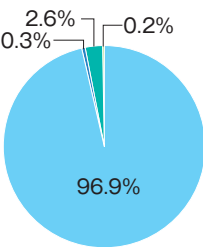
株式情報 (2013年2月20日現在)

発行可能株式総数	27,360,000株
発行済株式の総数	12,051,384株
単元株式数	100株
株主数	7,948名

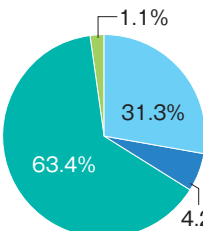
大株主 (2013年2月20日現在)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
ユニー株式会社	7,393	61.34
野村信託銀行株式会社 (投信口)	294	2.44
パレモ従業員持株会	241	2.00
個人株主A	225	1.87
株式会社三菱東京UFJ銀行	130	1.07
BNP-PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG-JASDEC SECURITIES	95	0.78
個人株主B	63	0.52
岩間商事株式会社	52	0.43
サンラリー株式会社	50	0.41
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社 (信託口)	40	0.33

株主構成 (2013年2月20日現在)



株主数構成比	株主数	構成比
個人株主その他	7,698名	96.9%
証券会社・金融機関	27名	0.3%
その他国内法人	209名	2.6%
外国法人・個人	14名	0.2%
合計	7,948名	100.0%



株式数構成比	株式数	構成比
個人株主その他	3,772,415株	31.3%
証券会社・金融機関	503,486株	4.2%
その他国内法人	7,638,232株	63.4%
外国法人・個人	137,251株	1.1%
合計	12,051,384株	100.0%

株主メモ

事業年度	毎年2月21日から翌年2月20日まで
定時株主総会	毎年5月開催
基準日	定時株主総会 毎年2月20日 期末配当金 毎年2月20日 中間配当金 毎年8月20日
公告方法	そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日 電子公告により行ないます。 http://www.palemo.co.jp/ ※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について
証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。
証券会社の口座のご利用がない株主様は、下記電話照会先までご連絡ください。

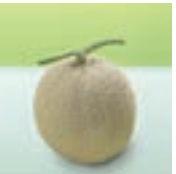
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
但し、旧株式会社鈴丹の株主様が特別口座に関するご照会をされる場合は、下記の電話照会先にご連絡ください。	
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	0120-232-711 (通話料無料)
株主名簿管理人	名古屋市中区栄三丁目15番33号
事務取扱場所	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行事務センター
電話照会先	☎ 0120-782-031

特別口座について
株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社(旧株式会社鈴丹の株主様は三菱UFJ信託銀行株式会社)に口座(特別口座といいます。)を開設しております。
特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

株主優待

株主の皆様方のご支援に対する感謝の印といたしまして、毎年2月20日現在の株主名簿に記載された300株以上保有の株主の皆様に対し、下記のとおり株主様ご優待品を進呈いたしております。

300株以上	1,000株未満	1,000円のクオカード
1,000株以上		5,000円相当の果物



会社情報

会社概要 (2013年2月20日現在)

社名	株式会社 パレモ
設立	1984年11月22日
資本金	12億2,925万円
本社所在地	〒492-8680 愛知県稲沢市天池五反田町1番地
事業所	パレモ東京 〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町12番20号 日本橋T&Dビル3階・4階 パレモ大阪事務所 〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島5丁目7番19号 第7新大阪ビル 8階
従業員数	3,852名 (ナショナル社員251名、エリア社員他3,601名)
事業内容	レディースアパレル、バラエティ雑貨、 バッグの専門店チェーン
ホームページ	http://www.palemo.co.jp/

役員 (2013年5月9日現在)

代表取締役社長	小田保則
専務取締役	吉田馨
常務取締役	永井隆司
取締役	飯田務
取締役	江里口直
取締役	手塚文人
常勤監査役	黛龍二
監査役	伊藤章
監査役	中村弘

注:取締役のうち、手塚文人氏は社外取締役であります。
監査役のうち、伊藤 章、中村 弘の両氏は社外監査役であります。

沿革

1984年 11月	株式会社パレモ 設立(資本金1億円)
1985年 2月	株式会社パレモとして営業開始
1985年 7月	路面1号店 ギャルフィット原宿店オープン
1987年 3月	東京営業本部 開設
1988年 8月	POSシステムの導入
1992年 2月	増資 資本金2億円へ
1995年 2月	増資 資本金2億6,750万円へ
1996年 2月	額面株式5万円から50円へ変更
1998年 2月	シーベレット事業を営業譲受 増資 資本金2億8,145万円へ
2000年 8月	本社を愛知県稲沢市(現在地)へ移転
2001年 8月	大阪本部 開設
2003年 8月	日本証券業協会に株式を店頭登録
2004年 7月	公募増資 資本金12億2,925万円へ
2004年 12月	日本証券業協会への店頭登録を取り消し ジャスダック証券取引所に株式を上場
2005年 8月	インセンス事業を営業譲受
2006年 11月	木糸土1号店 小田急新宿ミロードにオープン
2006年 12月	リメディア1号店 モレラ岐阜店にオープン
2007年 4月	ドスチ1号店 アピタ千秋店にオープン
2007年 10月	Re-J1号店 イオンモール羽生店にオープン
2008年 1月	巴麓夢(上海)服飾貿易有限公司 設立
2008年 6月	中国1号店 上海久光百貨店にオープン
2008年 6月	イルーシー300 1号店 サンテラスー宮店にオープン
2009年 6月	巴麓夢(上海)服飾貿易有限公司 売却
2010年 2月	ヴィサリア1号店 渋谷109店にオープン
2010年 4月	大阪証券取引所JASDAQ市場に株式を上場
2010年 10月	大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)に株式を上場
2010年 10月	リシェリエ1号店 ESTA札幌店にオープン
2011年 12月	ハレノヒ1号店 横浜ワールドポーターズ店にオープン
2012年 2月	株式会社鈴丹と合併